

平成17年6月16日

平成17年度食品健康影響評価技術研究の研究領域の候補について（報告）

平成17年6月7日に開催された食品健康影響評価技術研究運営委員会において、以下の7研究領域の候補が選定されたので報告します。

I 化学物質系研究領域

○ 化学物質の発がんリスクの評価法に関する研究領域

遺伝毒性発がん物質については、これまで閾値が存在せず、ADIを設定できないとされてきたが、最近の試験研究において、低用量では発がん性を示さないものがあることも分かってきている。このため、より科学的に妥当性の高い発がん性の評価のため、遺伝子の特異的発現パターン等発がんの指標（発がんマーカー）や感受性の高い実験動物の開発及びこれらを用いた新たな定量評価法に関する研究を募集する。

○ 食品の容器包装・器具のリスク評価法に関する研究領域

食品の容器包装・器具は、食品の長期貯蔵においても使用され、容器包装・器具の原料となっている樹脂や金属中に含まれる化学物質が食品中に溶出することから、これら化学物質の毒性試験や容器包装・器具の使用実態を踏まえた化学物質の溶出予測モデルの作成等食品の容器包装・器具の安全性のリスク評価に資する研究を募集する。

II 生物系研究領域

○ プリオンに起因するリスクの評価法に関する研究領域

牛海綿状脳症（BSE）等プリオンに起因するリスクは国又は地域におけるBSEプリオンの汚染状況及び管理措置の有効性により変動することが明らかになっている。今後、一層的確かつ効率的な評価を進める上では、統計学的手法の導入によるBSE感染リスク、食肉の汚染リスク、管理措置毎のリスク低減効果等の解析が必要であり、これらプリオンに起因するリスクの評価法に関する研究を募集する。

○ 微生物・ウイルスの定量的リスク評価及び薬剤耐性菌のリスク評価に関する研究領域

食中毒の原因となる微生物・ウイルスのリスクについて効率的かつ整合性の高い評価を行うためには、感染者数、用量－反応関係の推定技術等を踏まえ、統計学的手法を用いた定量的リスク評価が必要となっている。また、家畜に使用される抗菌性物質による耐性菌の発生が、ヒト医療に影響を及ぼしている可能性が示唆されている。このことから、家畜への抗菌性物質の使用とヒトの耐性菌発生との因果関係の解析及び家畜用抗菌性物質のヒトへのリスク評価とが重要である。このため、これら微生物等のリスク評価法に関する研究を募集する。

Ⅲ 新食品等研究領域

○ タンパク質等食品成分のアレルギー発現性の評価法に関する研究領域

遺伝子組換え食品を含む食品中に含まれるタンパク質等についてのアレルギー発現性は食品の安全を評価する上で重要であるが、これについての国際的に統一された評価法がないことから、バイオインフォマティックス手法等を利用したアレルギー発現性の評価法に関する研究を募集する。

Ⅳ その他研究領域

○ 食品に関連するリスクの定量的評価法に関する研究領域

リスク評価の信頼性の一層の向上のため、食品の定量的リスク評価の導入が重要となっているが、我が国においては、医薬品分野などに比べ遅れている。このため、食品に関連するリスクの定量的評価に必要な試験設計技術やデータの信頼性の評価技術等様々な評価段階ごとに統計技法を活用した定量的評価法の開発に関する研究を募集する。

○ 食品安全分野のリスクコミュニケーションの手法等に関する研究領域

リスク評価結果については、消費者、生産者、流通業者を含めた関係者が相互に十分な意見、情報の交換していくことが重要であるが、プリオン病や遺伝子組換え食品等に関するリスクコミュニケーションにおいては、一方的な意見表明にとどまるケースもある。従って、効率的かつ効果的なリスクコミュニケーションを進める観点から、その実施手法、成果評価法等に関する研究を募集する。

食品健康影響評価技術研究のプロセスフロー

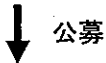
食品安全委員会委員・専門委員から研究領域（案）提出



食品健康影響評価技術研究運営委員会（研究運営委員会）において研究領域候補選定



食品安全委員会において研究領域決定



研究機関・研究者から研究課題応募



研究運営委員会

研究課題の応募時（事前評価）

研究の継続時（中間評価）

研究の終了時（事後評価）

書類審査

書類審査

書類審査



ヒアリング審査

ヒアリング審査

研究評価



研究課題の選定

研究の継続の可否

研究の評価結果の報告



食品安全委員会において

研究課題の決定（事前評価）

研究の継続の可否の決定（中間評価）

研究の評価結果の決定（事後評価）



結果の通知・公表